

2. まちのネーミング

「潮 芦 屋」

南芦屋浜地区の魅力やすばらしさをイメージ出来る愛称を公募した結果、柔らかで優雅な響きのある海水を意味する「潮」と全国的にブランド力のある「芦屋」をあわせた上記に決定し、当該地区の分譲やまちづくり全体のPRに積極的に使用する。

ただし、都市計画等法令に基づく事業関係においては「南芦屋浜」を継承使用する。

3. まちづくりの戦略展開事業

まちづくりのコンセプトを実現するため、ユニバーサルデザインを基本とした21の戦略事業を展開する。

この戦略展開事業は、まちが熟成する平成26年度までの期間を目標とするが、概ね5年を目途に事業見直しを行うこととする。

コンセプト		戦略展開手法	
安心	健やかな暮らしが満ちるまち	A	必要なものが身近にある、歩いて暮らせるまちづくり → L
		B	保健・医療・福祉サービスの充実 → M
		C	子育てに優しい、子供の笑顔が見られるまちづくり → N
	自立のコミュニティを育むまち	D	地域住民相互のコミュニティづくり → O
		E	住民主体の緑豊かなまちづくり → P
		F	コミュニティ安心拠点づくり → P
		G	コモンのあるまちづくり → 削除
安全	ユニバーサルデザインのまち	H	誰もが快適に利用できる公共空間づくり → G
		I	誰もが住みやすい住宅づくり → H
		J	誰もが快適に移動できる交通機関の整備 → I
	人と自然が共生するまち	K	資源を大切に作る循環型のまちづくり → R
		L	震災の教訓を生かした災害に強いまちづくり → J
M	暮らしを守るまちづくり → K		
魅力	「芦屋」の魅力溢れるまち	N	ゆとりと豊かさを実感できる生活空間づくり → A
		O	外国人とのふれあいのあるまちづくり → B
		P	高品質で多様な住宅の提供 → C
		Q	コミュニティアートによる文化が香るまちづくり → 削除
	新しい交流とふれあいが広がるまち	R	マリーナのあるまちづくり → D
		S	磯遊びのできる白砂青松の浜辺のあるまちづくり → E
		T	アメニティ豊かな水と緑の癒しの空間づくり → F
		U	潮風プロムナードのあるまちづくり → F

2. まちのネーミング

「潮 芦 屋」

南芦屋浜地区の魅力やすばらしさをイメージできる愛称を公募した結果、柔らかで優雅な響きのある海水を意味する「潮」と全国的にブランド力のある「芦屋」をあわせた「潮芦屋」に決定し、当該地区の分譲やまちづくり全体のPRに積極的に使用する。

ただし、都市計画等法令に基づく事業関係においては「南芦屋浜」を継承使用する。

3. まちづくりのコンセプトと施策展開

まちづくりのコンセプトを実現するため、ユニバーサルデザインを基本とした18の施策を展開する。

この施策は、まちが熟成する平成30年代前半までを目標とし、行政、開発者によるまちづくりから、住民主体によるマネジメントの実現が可能となるよう展開する。

メインコンセプト	コンセプト	施策		
海と緑を取り入れたゆとりと潤いのあるまちづくり	「芦屋」の魅力あふれるまち	A	ゆとりと豊かさを実感できる生活空間づくり	
		B	外国人とのふれあいのあるまちづくり	
		C	高品質で多様な住宅の提供	
	新しい交流とふれあいが広がるまち	新しい交流とふれあいが広がるまち	D	マリーナのあるまちづくり
			E	磯遊びのできる白砂青松の浜辺のあるまちづくり
			F	潮風プロムナードのあるまちづくり
人に優しく災害に強いまちづくり	ユニバーサルデザインのまち	G	誰もが快適に利用できる公共空間づくり	
		H	誰もが住みやすい住宅づくり	
	災害から人の暮らしを守るまち	I	誰もが快適に移動できる交通機関の整備	
		J	震災の教訓を生かした災害に強いまちづくり	
		K	暮らしを守るまちづくり	
環境に優しいライフスタイルを育むまちづくり	健やかな暮らしが満ちるまち	L	必要なものが身近にある、歩いて暮らせるまちづくり	
		M	保健・医療・福祉サービスの充実	
		N	子育てに優しい、子供の笑顔が見られるまちづくり	
	自立のコミュニティを育むまち	自立のコミュニティを育むまち	O	地域住民相互のコミュニティづくり
			P	コミュニティ安心拠点づくりの推進
			Q	アメニティ豊かな水と緑のまちづくり
人と自然が共生するまち	人と自然が共生するまち	R	資源を大切に作る循環型のまちづくり	

「芦屋」の魅力溢れるまち

N ゆとりと豊かさを実感できる生活空間づくり

多くの芦屋市民に誇りと愛着をもってもらえる街となるよう、芦屋らしい緑豊かで風格のあるまちづくりを行うため、ゆとりと豊かさを実感できる生活空間を提供する。



緑のモールの整備

■生活環境を育む緑とオープンスペースの形成

・芦屋らしい豊かな生活空間の骨格を成すものとしてガイドラインや条例等で担保された宅地の緑と公共空間の緑を一体的に育み、保全していく

■戸建中心で人口密度の小さい、ゆとりある住環境の提供

開発面積 約 125ha 計画人口 9,000人
人口密度 72人/ha

(参考)芦屋シーサイドタウン 179人/ha

(参考)

施設	面積(ha)	施設内容
公園	13.78	芦屋市総合公園(9.74ha) 親水公園(2.77ha)・街区公園(1.27ha)
緑地	13.01	港湾緑地(4.01ha)・南緑地(2.76ha) 緑のモール(0.30ha)・陽光緑地(5.08ha) 親水緑地(0.45ha)・緑道(0.20ha) 緩衝緑地(0.21ha)
合計	26.79	

1人当たり緑地率 29.8m²/人

芦屋市	9.0m ² /人
西宮浜	3.2m ² /人
芦屋浜	6.3m ² /人
東部新都市	1.4m ² /人

■潮芦屋における都市景観ガイドライン、地区計画等による魅力的な街並み景観の形成と保全

■自然景観を楽しめる緑のオープンスペースネットワークの形成

- ・各公園と緑地、緑道を有機的に相互につなぎ、緑豊かな歩行者空間を形成(次図)
- ・レクリエーションを楽しみながら自然とふれあう公園整備

「芦屋」の魅力あふれるまち

A ゆとりと豊かさを実感できる生活空間づくり

多くの芦屋市民に誇りと愛着をもってもらえるまちとなるよう、芦屋らしい緑豊かで風格のあるまちづくりを行うため、ゆとりと豊かさを実感できる生活空間を提供する。



緑のモールの整備

■戸建中心で人口密度の小さい、ゆとりある住環境の提供

開発面積 約 125.6ha 計画人口 8,000人
人口密度 64人/ha

(参考)芦屋浜 107人/ha

■生活環境を育む緑とオープンスペースの形成

- ・芦屋らしい豊かな生活空間の骨格を成すものとして、景観地区景観形成ガイドライン、景観形成方針や地区計画等で担保される宅地の緑と、公共空間の緑を一体的に育み、保全していく

施設	面積(ha)	施設内容
公園	13.81	芦屋市総合公園(10.02ha)・ 親水中央公園(2.01ha)・ 街区公園(5箇所計 1.78ha)
緑地	12.10	陽光緑地(4.16ha)・親水緑地(0.45ha)・ 南緑地(2.76ha)・海洋緑道(0.21ha)・ 潮芦屋緑地(4.01ha)・ 緑のモール(0.30ha)・緩衝緑地(0.21ha)
合計	25.91	

1人当たり公園・緑地面積
32.4 m²/人

(参考)

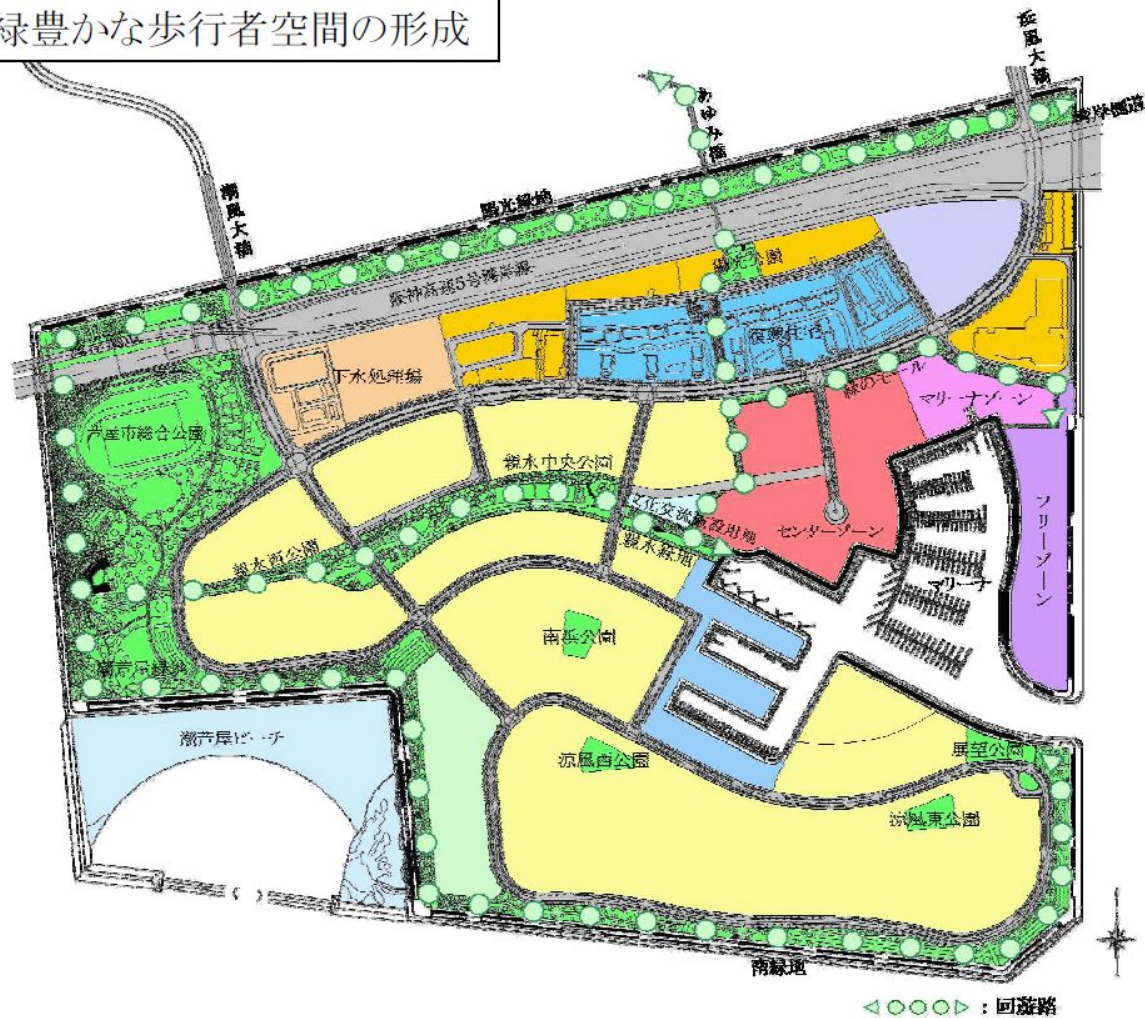
芦屋市	7.1 m ² /人
芦屋浜	10.6 m ² /人
西宮市	7.2 m ² /人
神戸市	16.9 m ² /人

■潮芦屋における景観地区景観形成ガイドライン、景観形成方針、地区計画等による魅力的なまち並み景観の形成と保全

■自然景観を楽しめる緑のオープンスペースネットワークの形成

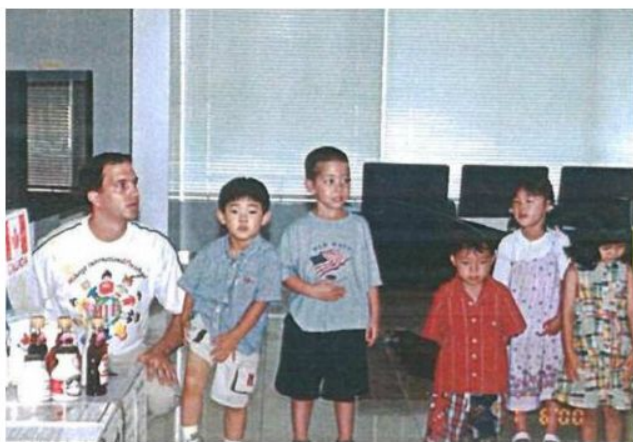
- ・各公園と緑地、緑道を有機的に相互につなぎ、緑豊かな歩行者空間を形成
- ・レクリエーションを楽しみながら自然とふれあう公園整備

緑豊かな歩行者空間の形成



○ 外国人とのふれあいのあるまちづくり

「国際文化住宅都市」を標榜し、多くの外国人が居住する芦屋市の国際交流の拠点として、地域住民との多彩な交流が図れるまちづくりを推進する。



(参考)国際交流教室の様子

- 国際幼児教育施設の誘致等
 - ・英語教育を主眼とした国際幼児教育施設の誘致
 - ・外国人学校との連携
- 国際交流センターの誘致検討
- 居住環境の整備
 - ・公共施設等における多言語表記

緑豊かな歩行者空間の形成



B 外国人とのふれあいのあるまちづくり

「国際文化住宅都市」を標榜し、多くの外国人が居住する芦屋市の国際交流の拠点として、地域住民との多彩な交流が図れるまちづくりを推進する。



公共施設の多言語表記

- 国際幼児教育施設の誘致等
 - ・英語教育を主眼とした国際幼児教育施設の誘致
 - ・外国人学校との連携
- 国際交流センターの誘致
- 居住環境の整備
 - ・公共施設等における多言語表記